

写真索引



我が家にはもう1匹ネコがいた。そのいきさつは2001年3月、どこからともなくやって来て、庭で遊んでいるうち、食べ物をねだるようになり、気が着いたら上がりこんでいた。転勤族に捨てられたか、はぐれて野良になったらしい。しかしこのネコにはノロマで憎めない優しさがあったので、ハッピーと名づけた。ハッピーはモーニングを身に着けたホテルマンのように折り目正しくて誠実な猫だった。



ハッピーは、新参者のジュンと争うようなことはなかった。むしろジュンの方が気性は荒かった。夜はこのように椅子の上で仲良く寝ていることが多かったが、寒い日はそれぞれ左右に分かれて小生のベッドの両側で寝ていたから、寝返りが自由に打てなくて困った。しかし首の周りは何となく暖かった。

春先、急に暖かくなってきたある日、秋ヶ瀬公園まで2匹を車に乗せて連れて行ったことがあった。ところがジュンは小生の後をどこまでも着いて来たが、ハッピーは車の下に入って出て来ようとしなかった。ジュンの行動範囲は日ごろは外に出さずに、家の室内と2階のテラスを居住範囲と決めてあった。ゴロの門前で事故死に懲りていたからである。一方ハッピーはどこへでも自由に行かせていた。またジュンは1歳のときに去勢したが、ハッピーはそのままにしておいた。ところがこのハッピーは生まれつきか、以前の飼い主に手術されたのか、声を出すことが出来なかった。そんな飼い方の違いもあってか、両者の個性は実に異なっており、ハッピーの方がすべてに慎重だったし、温厚で近所のネコとも仲良くしていた。またその理由は定かではないが、ハッピーは必ず道路の右側を歩く習慣があり、家から駐車場までのほんの50mの距離も、2回も道を渡って右側を歩いた。そして何よりもハッピーの特徴は、小生が外出して家に帰るまで、必ず門前の駐車場の車の下で、小生が帰宅するのを待っていたことである。忠犬八公ならぬ忠猫ハッピー公であった。しかし晩年は歯槽膿漏に苦しみ、食事のたびに激痛に耐えているようで、なんとも不憫だったが、手の施しようがなかった。死んだときにはほとんどの歯がなくなっていた。亡くなる2週間ぐらい前から、食事を摂らなくなり、家に帰って来ない夜もあった。どこかで死んだのかもしれないと思っていたある日、ひょっこり現れたがひどくやせこけていた。その晩はジュンとハッピーとみんなで一緒に寝たが、明け方ハッピーは小生の顔にオシッコをかけた。彼の小生に対する感謝のしるしだったのかもしれない。翌日の午後、玄関の机の下にもぐり込んで、静に息を引き取った。2008年7月12日のことだった。動物の死は悲しい。とめどなく涙が流れた。年齢は不詳だが15歳ぐらいで、キンモクセイの下のゴロの隣に葬った。

凡 例

- 各章の扉で用いた写真に関しては、章の表記に用いた色である青色で記した。
- 各項の扉で用いた写真に関しては、章の表記に用いた色である緑青色で記した。
- 植物名はすべてカタカナで表記し、一方、風景写真やそれに類する物、動物、昆虫、蝶などに関しては漢字で記した。
- この索引では各ページとリンクしていません。
- インターネットや、ウィキペディアより借用して掲出した写真に関しては、その借用元を出来る限り調べるようにいたしました。著作権者の不明なものも多く、この場合にはネットより借用、ウィキペディアより借用と記載させていただきました。実はこれらの写真は数年前に検索し、マイピクチャーに保存しておりました。今回、小生のホームページで掲出させていただくにあたり、あらためて著作権者を検索させていただいたのですが、かなりの時間が経過しているためか、検索することが出来ないものも多くありました。無断で借用する結果となりましたことを、著作権者の方に心よりお詫び申し上げますとともに、おかげをもちまして、この『花の縁』を公開できる運びとなりましたことをこの場を借りまして心より御礼申し上げます次第です。

[写真索引へ行く](#)